

企業名： 清水建設

レポート名： 「シミズコーポレートレポート 2022」

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

理解できる。

清水建設は、社是として「論語と算盤」を掲げ、それに基づいた企業文化を育み、「SHIMZ VISION 2030」、「SHIMZ Beyond Zero 2050」などの具体的な将来のビジョンを設定し、それを達成するための「マテリアリティ」を具体的に提示しており、誰もが清水建設の目指している将来像を理解できる内容のコーポレートレポートであった。コーポレートレポート内で、説明がなかったものについて、補足的な説明を加え紹介しようと思う。

「SHIMZ VISION 2030」

「SHIMZ VISION 2030」は、清水建設が目指す2030年の姿である。時代を先取りする価値を創造する、スマートイノベーションカンパニーを目標としており、それを達成する上での三つの要素を提示している。

① Resilient

自然災害に耐えうる強靱な建物・インフラの構築を通して、安心・安全でレジリエントな社会を実現する。

② Inclusive

人にやさしい施設や街づくりを通して、急速な社会変化に対応して、健康・快適に暮らせるインクルーシブな社会を実現する。

③ Sustainable

次世代に豊かな地球を残すため、環境負荷低減を目指す企業活動を通じて、地球環境に配慮したサステナブルな社会を実現する。

以上の3つの柱を中心として、事業構造・技術、人財のイノベーションを清水建設は図っている。

また、目指す収益構造も明示しており、2018年度では9割が建設事業、1割が非建設事業であった収益構造を、2030年度には6.5割を建設事業、3.5割を非建設事業に、また海外進出を増やすことも明確に目標として掲げており、2018年度では収益の0.5割であった海外収益を2.5割まで底上げすることを目指しており、全体としては、2016年度では1339億円であった連結経常利益を、2023年度では2000億円以上にまで増やすことを掲げている。

「SHIMZ Beyond Zero 2050」

「SHIMZ Beyond Zero 2050」とはシミズグループが目指す持続可能な社会の具体的なビジョンのことである。2050年までにカーボンゼロ・廃棄物最終処分ゼロ・自然に与える負の影響ゼロの3つのZeroを達成することを前提としたうえで、技術革新や再生エネルギー電力の創出による脱炭素社会の牽引、地域資源の循環利用の促進への貢献、グリーンインフラの導入によって、地域の生物多様性がプラスされた豊かな環境を次世代に残すことなどのBeyond Zero（ゼロの先）の達成を目標とする計画である。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

理解できる。

清水建設の競争優位性の一つは、この企業が積み上げてきた実績が挙げられる。コーポレートレポートの序盤に企業の歴史について詳しく述べられており、「世界初」、「日本初」の実績が多く取り上げられていた。これは清水建設が「進取の精神で時代を開いてきた」ということを証明するものであり、時代の最先端を切り開き、顧客の期待を超えることができるという裏付けである。

国内では、第18回オリンピック東京大会のための競技場の建設、東京湾アクアラインの建設など、国を挙げての建設事業に携わってきたという信頼も、清水建設の競争優位性の一つである。

国外に目を向けてみると、アジアでのLRT・MRTの建設に携わった実績や、アフリカでの医療施設の建設、北米にも活動本部を設置しているなど、海外事業のためのコネクションや、展開の土台があることも、国内事業にフォーカスしている企業と比べた時に、競争優位性を持っているといえるだろう。

シミズグループが掲げている「SHIMZ Beyond Zero 2050」からもわかるように、持続可能社会の実現のために意識的に取り組んでいるということも競争優位性をはらんでいるといえる。

ただ、改善点もある。これについては後述する。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

理解できるものと理解できないものがある。

信頼、実績の部分は、過去に起こったことの評価であるため、これは、清水建設が

これらの積み重ねられたストロングポイントを無にするほどの失敗を犯さない限り、担保されているものといえる。国内ではもうすでに大きなシェアを確保しており、海外も果たしていることから、海外での拠点、そしてコネクションについても、長い目で見たとしても持続性がるといえるだろう。

しかし、最先端を切り開いていく技術や、これからも海外で大きな成果を上げ続けること、そして持続可能社会への貢献については、まだ不確定な要素が多くある。これについては後述する。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

ある程度達成できると考える。

私自身は自分の国際性に大きな自信を持っており、それを活かし、さらに磨きをかけることができる環境に身を置きたいと考えていた。清水建設は、海外に進出し、正かを挙げていること、さらにはこれからより力を入れることを、「SHIMZ Vision 2030」でも掲げているため、国際事業の展開に携わることができれば、自分のストロングポイントを強化できると考える。

さらに、清水建設では建設業を支えている建設技能労働者の処遇改善将来の担い手確保のために、建設技能労働者の経験と能力を適切に評価する建設キャリアアップシステム(CCUS)の普及促進に力を入れている。このシステムをかつようすることで、自分自身の建設技能の向上に前向きに取り組むことができ、スキルアップにつながると考える。

また、ダイバーシティ&インクルージョンを積極的に推進しており、性別、年齢、国籍等に関わらず、優秀な人財へとそだてることをアピールしている。また「働き方改革」を推進していることから自分にあったスキルアップを労働時間外に取り組むことができる。また、ストレスなく働くことで、効率的なスキルアップが図れることができる、

しかし、これらのことは抽象的な記述に留まっているものも多く、具体性に欠けている。このことについては、後述する。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

「SHIMZ Vision 2030」や、「SHIMZ Beyond Zero 2050」、「マテリアリティ」など具体的な目標が得遺棄されており、会社の理念や目指しているものが誰にでも伝わりやすい形であらわされているところがよかった。改善するには、それらの目標、スローガ

ンについて、初めて知った読者に対しても、具体的なイメージが浮かぶような説明を提示すると、さらに良くなると思われる。

競争優位性については、ほとんどの場合、清水建設のストロングポイントが明確に示されており、とても分かりやすかった。改善点としては、起業優位性が少しあいまいに記述されている点や、持続性が不確定要素を多くはらんでいることが挙げられる。環境に気を使った持続可能社会の実現を目指す記述が多くあったが、それらを実現する具体的なビジョンや技術が欠けていたと考える。長期的なビジョンだけでなく、短期的な目標そしてその実現性を提示することで、読者がよりリアリティを感じるような資料を提示することで、改善できると考える。

従業員の人的資本の価値向上については、直接的なアピールになる記述が少し足りないように感じられた。働きがいや、雇用環境についての記述は多く見られ、読者にもそのイメージは伝わるが、読者がこの会社に勤めることによって、自分の人的資本の価値向上を達成できるという風に確信させるためには、具体的な施策、そしてその実施によって出た効果などについての資料、実際にスキルアップすることができた従業員に対してのインタビューのような具体性を持ったものを提示することで改善できると感じた。